令和５年度　江戸川区立小松川第二中学校　学校関係者評価　最終評価報告書

学校教育目標	東京都及び江戸川区教育委員会の教育目標並びに地域社会や生徒の実態を踏まえ、人権尊重の精神を基盤とし、我が国と郷土への豊かな愛情をもち、伝統と文化を尊重し、公共の精神を尊重できる、心身共に健康で人間性豊かな生徒の育成を目指す	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・生徒、保護者、地域、学校職員、卒業生が誇りに思う学校・暴力、いじめ、体罰がなく、人権が守られ生徒が安心して通える学校・生徒一人一人を大切にし、個性や得意な面を伸ばす学校・苦手なことにも挑戦でき、その気持ちを讃える風土をもつ学校。 ・「思いやりのある、心豊かな生徒」・「進んで学び、考えて行動する生徒」・「規律を守り、責任を果たす生徒」・「心身を鍛え、たくましい生徒」 ・生徒に受情をもって接することができる教師・服務の厳正に努め、組織の一員として職務を遂行する教師・生徒を自立させるために尽力し、生徒の成長する姿に喜びを感じる教師・生徒と共に活動し、生徒に範を示すことのできる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞服務事故の防止、Hyper-QUを活用した生徒理解 ＜課題＞増加傾向にある不登校生徒、OJT体制を活用した組織的な生活指導、主体的、対話的で深い学びに向けての授業改善		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞　・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の実施 ・外部人材を活用した放課後学習教室	・都学力調査「できた」「わかった」90% ・放課後学習教室を年100回実施	A	B	○全国学力調査より、国語・英語が都平均、数学が都平均+4ptとなり、基礎学力の定着が見られる。 ●「できた」「わかった」については、78.9%となり、東京平均-1.2ptであるため、誰一人取り残さないアクションプランの継続が必要である。 ○放課後学習教室は予定通りの実施回数をこなしている。	A	・全国学力学習状況調査で、数学が都平均を上回ったのは素晴らしい。 ・数学の学力が4pt上昇したということは、結果がすべてで、取組の成果ではないかと考える。 ・英語については、地域の方の協力を得るなど、コミュニケーションの機会を増やしていったほうが良い。	・「誰一人取り残さないための学力向上プラン」の継続的な実践と、生徒の実態に即した目標の修正を適宜実施する。 ・自己肯定感、自己有用感の涵養のため、朝礼等での表彰や、「できた、わかった」を感じることができる授業を実践する。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・朝読書・探究的な学習の推進 ・ビブリオバトルの開催	・朝読書年間21時間の確保 ・行事等を含めた、学習成果物を全生徒が作成 ・年1回ビブリオバトルの実施	A	A	○予定時数を着実に実施することで、朝読書の習慣が身に付いている。 ○行事等において、学校図書館を使用した調べ学習を実施し、学習成果物を作成している。 ○ビブリオバトルの実施に向け、計画的に取り組んでいる。 ●学校図書館の日常的な活用が課題である。	A	・朝読書が習慣化しており、学習の定着がみられる。 ・朝読書の成果が、国語の学力に通じていると思う。 ・ビブリオバトルの継続を望みます。	・電子管理システムの導入に基づき、他校を圧倒する蔵書率を生かした貸出冊数増加のための仕組みづくりを行う。 ・持続可能な形でのビブリオバトルの実践。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ 体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・体育の授業に基礎体力トレーニングを取り入れる。	・体育の授業において、導入時に基礎体力トレーニングを毎時間取り入れる。	A	B	○体育の授業において、導入時に基礎体力トレーニングを実施することにより、東京都体力調査の「上体起こし」「反復横跳び」の項目で都平均よりも高い結果が表れている。 ●東京都体力調査の「握力」「持久走」の項目で都平均を下回る学年が多いことが課題である。	B	・基礎トレーニングを実施して、地道に体力を付けて欲しい。 ・基礎体力トレーニングを取り入れて、結果が出ていると思う。怪我の減少など、今後に期待する。 ・楽しくて、やる気の出る体力トレーニングを。	・体力の向上を点でとらえるのではなく、生活に結び付けた線として捉え、怪我の防止や大会等への成果という目標をもって活動する。
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・配慮を要する生徒に対して、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた組織的な対応を検討する校内委員会の充実	・毎週１回の校内委員会を実施し、生徒への対応を検討する。	B	B	○毎週１回の生活指導連絡会、隔週の特別支援委員会の実施により、情報を共有して対応をすることができている。 ○校内別室支援員の活用が始まり、校内の別室指導体制が整ってきている。 ●副籍交流について、内容の充実が課題である。	B	・個々人に応じた指導を継続して欲しい。 ・校内委員会の充実に期待する。	・SSW、SC、臨床心理士といった外部機関と特別支援委員会を通して連携し、個に応じた支援の充実を図る。 ・副籍交流について、他校の良事例を参考にしながら、お互いによい効果が表れる活動を実践する。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypaer-QUの活用	・いじめの早期発見・早期対応、不登校傾向にある生徒への個別対応 ・校内研修におけるhyper-QUを取り入れた研究の充実	・年3回のいじめアンケートや年2回のふれあい面談の実施 ・週１回の校内委員会で情報を共有し、今後の方向性を確認する。 ・年2回のhypaer-QUを実施し、対応の検証を行う。	A	A	○いじめアンケートの計画的な実施から、法的根拠に基づくいじめの認知が定着してきている。 ○毎週１回の生活指導連絡会の実施により、情報を共有して対応をすることができている。 ○校内研修の実施を計画的に進め、学級運営の改善に努めている。 ●より充実した不登校対策が課題である。	A	・いじめの早期発見・早期対応ができていると感じられた。実態等をより知りたい。 ・コロナ禍で、地域とのつながりが減っている。今後は、地域活動も活発化すれば、健全育成に役立つと思う。 ・別室指導支援員、外部機関との連携を継続して実施して欲しい。	・いじめアンケートはもとより、いじめ一覧表の本格導入により、日々の指導にはいじめ見逃し0を目指す。 ・保護者、地域の方との連携を強化し、いじめ対策等の情報共有を図る。 ・校内別室指導体制を確立する。
地域に広く開かれた学校（園）の実現	＜自校（園）の取組の積極的な発信＞ ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	・学校だよりのホームページ公開、学年ごとの出来事のホームページ紹介 ・道徳授業地区公開講座、学校説明会等を実施する学校公開の計画	・学校だより月１回、学年ごとの紹介を週１回 ・道徳授業地区公開講座を年１回、学校説明会を年１回	A	A	○学校だよりを月１回発行し、ホームページに公開している。また、学年だよりを週１回発行し、同じくホームページに公開している。 ○学校公開を2回、道徳授業地区公開講座を1回実施した。学校説明会の計画通りの実施を行う。 ●道徳授業地区公開講座において、意見交換会への参加者を増やしていくことが課題である。	A	・学校ホームページを活用し、学校情報をよく発信していると思う。学校関係者へもアピールを。 ・道徳授業地区公開講座において、生徒がよく発言・対話をすることができていた。	・学校ホームページ運用について、学校だより、学年だより、日々の教育活動の配信を継続的に実施する。 ・道徳授業地区公開講座における、地域や保護者の方からご意見をいただく場面、および生徒の発言場面を引き続き準備する。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・生徒、保護者、教職員・地域の三者からの学校関係者評価を実施、分析、公表 ・学校公開や各種行事でのアンケート実施と分析、改善	・回収率80%を目指す ・学校公開、土曜授業で4回、運動会、文化祭で各1回ずつ実施する。	B	B	○学校関係者評価について、計画通りの実施を目指している。 ○学校公開、土曜授業、運動会においてアンケートの実施を行った。 ●アンケート結果の分析、結果を生かした次年度の計画が今後の課題である。	B	・都度、アンケートを実施していると思う。結果を次年度に生かして欲しい。 ・保護者アンケートが大変参考になった。 ・学校関係者評価について、数値化を徹底し、HPへの掲載を続けることで、成果と課題が明確になるようにして欲しい。	・学校行事後、および教育活動について保護者アンケートを継続的に実施し、改善に生かす。 ・学校評議員会を定期的に実施し、各種アンケート結果や教育活動を共有することで、教育活動の改善を図る。
特色ある教育の展開	＜生徒、保護者、地域、学校職員、卒業生が誇りに思う学校＞ ・学校に関係のある人たちが互いに信頼で結ばれ、お互いが尊重し合い、よりよい学校づくりを共に推進していく。	・ボランティア清掃を実施参加することで、地域の中の学校をきれいに保つ意識の醸成を図る。 ・小松川平井地区連合大運動会や小松川平井マラソン大会等の地域行事に参加者を募り、地域との連携を図る。	・年1回の実施を計画する ・100人以上のボランティア・参加者を募る	A	A	○地域ボランティア清掃について、生徒会を中心に実施を計画している。 ○大運動会には150名ほどが応募したが雨天中止となった。行事へのボランティアを引き続き募る。 ○地域のお祭りに、吹奏楽部が精力的に参加していろ	A	・今後も、ボランティア清掃、地域行事への参加などを継続して欲しい。 ・地域清掃をゲームのように楽しんでおり、自分が通う学校の周りをきれいに保つ意識につながっていた。 ・保護者アンケートも肯定的な回答であった。	・地域ボランティアについて、小松川平井青少年地区委員会や各町内会と連携しながら、引き続き生徒の参加を促す。